

表2 特別食の年間食数・内訳比率

種別	エネルギー コントロール食	脂質 コントロール食	たんぱく コントロール食	胃潰瘍食	手術食	減塩食 検査食	合計
食数(食)	17,292	6,936	12,159	1,020	3,582	8,286	49,275
比率(%)	35.1	14.1	24.7	2.1	7.2	16.8	100

表3 ハーフ食の年間食数・内訳比率

種別	常食ハーフ食	全粥ハーフ食	5・3分ハーフ食	ペーストハーフ食	流動ハーフ食	嚥下ハーフ食	合計
食数(食)	5,473	16,607	8,493	324	1,109	20,426	52,432
比率(%)	10.4	31.7	16.2	0.6	2.1	39.0	100.0

表4 嚥下食の年間食数・内訳比率

種別	嚥下訓練 ゼリー食	嚥下 ゼリー食	ペースト とろみ食	ソフト食	きざみとろ み食	合計
食数(食)	2,423	5,393	8,102	851	17,220	33,989
比率(%)	7.1	15.9	23.8	2.5	50.7	100.0

表5 栄養食事指導件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
外来個別栄養指導	79	89	87	92	92	82	90	94	88	73	75	67	1,008	84.0
入院個別栄養指導	61	49	51	47	54	41	60	57	56	49	49	55	629	52.4
集団指導	3	4	7	2	4	0	2	2	3	2	4	4	37	3.1
保健指導	2	3	4	1	3	4	2	5	4	2	3	5	38	3.2
合計	145	145	149	142	153	127	154	158	151	126	131	131	1,712	142.7

表6 栄養指導件数年次推移

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
外来個別栄養指導	1,222	1,215	1,195	1,024	1,008
入院個別栄養指導	714	759	796	638	629
集団指導	23	15	20	10	37
保健指導	72	63	49	38	38
合計	2,031	2,031	2,060	1,710	1,712

表7 栄養指導食事内容

	指導内容		延べ人数		割合(%)	
	指導内容	延べ人数	割合(%)	指導内容	延べ人数	割合(%)
個別指導	糖尿病	387	23.1	腎臓病	562	33.6
	脂質異常症	72	4.3	高血圧	48	2.9
	術後食	204	12.2	嚥下障害	66	3.9
	肝臓病食	98	5.9	心臓病	43	2.6
	胃・十二指腸潰瘍	17	1.0	癌	61	3.7
	高尿酸血症	10	0.6	膵臓病	15	0.9
	貧血	0	0.0	低栄養	7	0.4
	保健指導	38	2.3	その他	44	2.6
集団指導	糖尿病	35				

13 教育指導部

〈井田病院における初期臨床研修医教育の概要〉

教育指導部は、主に初期臨床研修医の教育を計画・運営しております。

井田病院では、2004年に新たな卒後臨床研修制度の発足とともに、管理型（後に一部の制度変更に伴い基幹型）研修病院として2年間のプログラムで初期研修医を受け入れるようになりました。小児科・産科など当院で診療していない科は川崎市立川崎病院を協力型病院として充実した研修を行えるようにしました。逆に、井田病院は川崎病院の協力型病院として、川崎病院の初期研修医の地域医療研修を受け入れ、相互に補完できるようになりました。

卒後臨床研修制度開始時における当院の募集定数は2名でしたが、2008年度採用から3名、2015年度採用から4名、2018年度採用からは5名に増えました。又、慶應義塾大学病院の地域循環型コースに参加し、初期臨床研修医を1年次に1年間お引き受けしています。

又、近年多くの大学でカリキュラムとして開始された「地域基盤型カリキュラム」についても取り組み、今年度は慶應義塾大学より3名の学生を受け入れ、緩和ケア内科・腎臓内科・整形外科で研修していただきました。

2018年度に新しい専門医制度が導入され、教育指導部も各診療科の支援を行ってまいります。

当院は2017年度にNPO法人卒後臨床研修評価機構による外部評価を受け、臨床研修病院の適切性について評価を受けました。今後も研修医を育成するにあたり、自治体病院としての使命のもと、地域の医療を支え市民が医療に求める負託に応えられる医師を育成してまいります。

〈教育指導部の変遷〉

歴代の教育指導部長は次のとおりです。

氏名	在任期間
初代 小柳 貴裕	2007年4月～2009年3月
2代 岡野 裕	2009年4月～2010年3月
3代 宮本 尚彦	2010年4月～2011年3月
4代 麻薙 美香	2011年4月～2018年3月
5代 伊藤 大輔	2018年4月～現在に至る

教育指導部は教育指導部長、担当課長（兼務、庶務課長）、担当係長（兼務、庶務課労務研修担当係長）、金澤寧彦先生（糖尿病内科）、中野泰先生（呼吸器内科）、嶋田恭輔先生（乳腺外科）（いずれも兼務）の6名体制で業務を行いました。

〈現在までの研修医〉

採用年度	氏名	出身校	進路
2004年度	佐藤 知美	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院外科
	俵矢 英輔	藤田保健衛生大学	慶應義塾大学病院脳外科
2005年度	鹿子生 祥子	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院小児科
	泉 圭	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院精神科
2006年度	奥野 祐次	慶應義塾大学	江戸川病院整形外科
	永田 充	東京慈恵会医科大学	湘南藤沢徳洲会病院消化器病センター
2007年度	荒木 耕生	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院小児科
	伊原 奈帆	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院麻酔科
2008年度	石井 正嗣	東京医科大学	慶應義塾大学病院外科
	木崎 尚子	東京女子医科大学	東京女子医科大学病院産婦人科
	谷口 紫	昭和大学	慶應義塾大学病院眼科
2009年度	海野 寛之	新潟大学	慶應義塾大学病院内科
	原田 佳奈	慶應義塾大学	川崎市立川崎病院産婦人科
2010年度	江頭 由美	愛媛大学	慶應義塾大学病院外科
	大西 英之	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院眼科
2011年度	長谷川 華子	熊本大学	慶應義塾大学病院内科
	安田 毅	日本医科大学	日本医科大学病院精神科
	龍神 操	横浜市立大学	慶應義塾大学病院皮膚科
2012年度	戸谷 遼	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院麻酔科
	成松 英俊	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院放射線診断科
2013年度	阿南 隆介	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院内科
	曾根原 弘樹	千葉大学	千葉大学附属病院産婦人科
2014年度	熊谷 迪亮	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院精神科
	櫻井 亮佑	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院放射線診断科
	二宮 早帆子	東京女子医科大学	横浜市立大学付属病院泌尿器科
2015年度	下村 雄太郎	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院精神科
	中村 匠	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院整形外科
	山之内 健人	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院整形外科
	渡邊 ひとみ	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院リハビリ科
2016年度	釜谷 まりん	日本大学	日本大学病院耳鼻咽喉科
	竹田 雄馬	横浜市立大学	横浜市立大学付属病院腫瘍内科
	橋本 善太	高知医科大学	慶應義塾大学病院精神科
2017年度	瀬野 光蔵	大阪市立大学	東京大学医学部付属病院神経内科
	前田 悠太郎	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院外科
	松本 健司	東京大学	東京大学医学部付属病院リハビリ科
	水間 毅	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院整形外科

採用年度	氏名	出身校	進路
2018年度	尾崎 光一	聖マリアンナ医科大学	横浜労災病院糖尿病内科
	栗田 安里沙	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院外科
	清水 裕介	慶應義塾大学	2021年弁護士登録予定
	志村 祥瑚	慶應義塾大学	マジシャン、2020年東京オリンピック選手メンタルコーチ
	森藤 彬仁	京都大学	東京都福祉保健局
2019年度	岩崎 達朗	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院皮膚科
	内田 悠生	東海大学	神奈川県立精神医療センター精神科
	河内 美穂	群馬大学	東京医科歯科大学放射線科
	清水 梨々花	聖マリアンナ医科大学	聖マリアンナ医科大学病院神経精神科
	館山 大輝	慶應義塾大学	湘南美容クリニック
2020年度	坂上 直也	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院放射線科
	田倉 裕介	慶應義塾大学	慶應義塾大学病院腎臓内分泌代謝内科
	田尻 舞	香川大学	自治医科大学附属さいたま医療センター眼科
	福澤 紘平	浜松医科大学	慶應義塾大学病院呼吸器内科
	三村 安有美	横浜市立大学	慶應義塾大学病院腎臓内分泌代謝内科
2021年度	池 瞳	千葉大学	研修中
	王野 添鋭	信州大学	研修中
	廣瀬 怜	慶應義塾大学	研修中
	藤塚 帆乃香	岐阜大学	研修中
	藤原 修	順天堂大学	研修中

(文責 庶務課 教育指導部担当係長 壱岐 崇)

14 地域医療部

地域医療部では、地域の医療機関との緊密な連携のために、院内外に対する集約的な窓口としての役割を果たしています。具体的には、患者さんのスムーズな社会復帰や円滑な退院のための支援や医療福祉相談をはじめ、退院前訪問などを提供しています。2019年に承認された在宅療養後方支援病院として、在宅で療養している多くの患者さんが緊急時の入院先として当院に登録を行っていただいております。

また、院外に向けた広報誌発行や医療機関訪問などの渉外業務を行っています。

I 地域医療部の理念

地域医療部は、地域医療機関との円滑な医療連携を図り、質の高い、安全で安心な医療サービスを地域住民に提供します。

II 地域医療部の基本方針

- 1 かかりつけ医の要望に100%応えるように努める。
- 2 診療情報提供書を患者さんのパスポートとする。
- 3 紹介患者の治療が終了した後は、紹介元へ戻し継続医療を推進する。(逆紹介)
- 4 かかりつけ医のいない患者さんを地域医療機関に紹介し、継続医療を推進する。
- 5 地域連携パスを整備し、運用を図る。
- 6 地域に根ざした医療を継続して提供するため、情報収集・提供を行い、地域とのコミュニケーション活動を図る。

III 地域医療部の業務内容

- 1 前方看護師・・・患者さん受け入れ・転院調整担当
 - ・地域の医療機関等からの紹介患者の外来診療・検査(上部消化器管内視鏡・CT・MR・シンチ等)の予約と救急受診の調整
 - ・診療情報提供書等の依頼
 - ・転院調整(受け入れ・転出)
- 2 後方看護師・・・入院患者の退院調整
 - ・医療ソーシャルワーカーとの連携による退院調整
 - ・在宅復帰率の算出
- 3 在宅ケア部門
 - ・在宅診療
 - ・在宅訪問
- 4 医療ソーシャルワーカー
 - ・入院患者の退院支援・調整
 - ・医療相談
- 5 がん相談員
 - ・がん相談支援センターの運営
 - ・がんに関する相談
 - ・セカンドオピニオン受付
- 6 事務
 - ・部庶務全般
 - ・連携登録医との連携業務
 - ・症例検討会、市民公開講座、出前講座等の企画及び運営
 - ・がん検診、特定検診、人間ドック等に関する企画や書類作成
 - ・地域がん診療連携拠点病院など地域医療部に関する届出事務
 - ・地域連携委員会、地域がん診療連携拠点病院推進委員会などの事務局及び書記

IV 地域医療部の重点課題

地域医療部は、部の理念に掲げているとおり「地域医療機関との円滑な医療連携を図り、質の高い、安全で安心な医療サービスを地域住民に提供」するため、日々業務に取り組んでおります。そして、次の3点を部の重点課題としております。

1 地域連携事業の推進

日々の紹介患者の予約や入退院支援、がん相談や医療相談、地域連携の会や市民公開講座等の開催など、地域の医療機関や地域住民の方々と顔を見える関係を築き、地域と病院の架け橋となって地域連携事業を推進してまいります。

2 地域がん診療連携拠点病院の認定継続

井田病院は『地域がん診療連携拠点病院』として、がんに関する検診から診療、そして在宅医療・訪問看護から終末期における緩和ケアまで行っております。

また、地域の医師や医療従事者との合同症例検討会・カンサーボードや、医療関係者に対する緩和ケア講習会、地域住民へのがんに関する WEB 市民公開講座なども開催しており、まさにがんに対するトータルな診療、ケアを提供できる病院です。

川崎南部医療圏の『地域がん診療連携拠点病院』として、地域医療機関との連携を一層推進し、地域におけるがん診療の拠点としての役割を全うしなければなりません。

3 健康管理室の運営（検診、健診の実施）

井田病院は川崎市が実施しているがん検診、特定健診の実施医療機関として、2021年度は7,566件もの検診・健診を行っており、他にも人間ドックや自費検診等を2,559件行っております。

2021年度は検診受診者を増やしていくための取組みとして川崎市老人福祉センター等に訪問し受診勧奨を行いました。

V 2021年度の主な実績

2021年度の地域医療部の主な実績については次のとおりです。

この実績は、医師、看護師、コメディカル、事務等、様々な職種の職員による日々の業務の積み重ねや支援により築き上げられたものです。今後もより一層地域連携の発展のため尽力していきます。

1 病診連携業務（予約業務、返書、診療情報提供書管理業務等）

地域の医療機関及び企業等から診察・検査・転院・救急外来受診等の紹介依頼を受け付けました。

また、継続的なフォローアップなど、地域の医療機関への通院が適切な場合は、患者さんの紹介元であった地域の医療機関へ再び紹介する業務（逆紹介業務）を推進しました。

毎日、退院予定の患者さんについて、逆紹介が必要な患者さんの診療情報提供書が作成されているかを確認し、作成されていない場合は主治医に作成を促しました。当院で死亡された患者さんの報告書作成を代行し地域の医療機関へ郵送しました。

2 入退院支援業務

地域の医療機関と連携を図り、患者さんの入院早期から受け持ち看護師、退院調整看護師及び医療ソーシャルワーカーが協働して退院に向けて準備を整え、退院後の在宅・転院相談など患者さん・御家族が安心して退院を迎えられるように支援を行いました。

入退院支援に関わる診療報酬算定実績

		2020年度	2021年度
入退院支援加算 1	一般病棟	3,245件	3,330件
	療養病棟	204件	418件
総合機能評価加算	一般病棟	-	726件
	療養病棟	-	6件
退院時共同指導料 2		43件	33件
退院時共同指導加算 3者以上		1件	0件
介護支援連携指導料		131件	62件
退院前訪問指導料		17件	13件
退院後訪問指導料		6件	0件
入院時支援加算		462件	544件

3 紹介患者数、逆紹介患者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
紹介患者数	6,687人	6,589人	5,648人	5,135人
逆紹介患者数	6,537人	6,533人	6,178人	6,266人

4 紹介率、逆紹介率

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
紹介率	56.9%	58.3%	57.5%	57.5%
逆紹介率	55.6%	57.8%	62.8%	68.3%

5 地域がん治療連携計画策定料の連携保険医療機関（2022年3月31日現在）

連携保険医療機関名	がんの種類
Kークリニック	前立腺がん
いずみ泌尿器科皮フ科	前立腺がん
山越泌尿器クリニック	前立腺がん
あおぼ江田クリニック	前立腺がん
中村クリニック泌尿器科	前立腺がん
高田 Y's クリニック泌尿器科内科	前立腺がん
よこはま乳腺・胃腸クリニック	乳がん・胃がん・大腸がん・肺がん
山高クリニック	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん
せやクリニック	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん
いしいクリニック乳腺外科	乳がん
神田クリニック	胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん
たかはし内科	肺がん
さかもと内科クリニック	胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん
たかみざわ医院	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん

連携保険医療機関名	がんの種類
中島クリニック	乳がん・胃がん・大腸がん・肺がん
徳植医院	胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん
中橋メディカルクリニック	胃がん・大腸がん
つむらや内科	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・前立腺がん
八木医院	大腸がん・肝臓がん・肺がん
大倉山記念病院	胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん
山本記念病院	胃がん・大腸がん
生駒クリニック	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・前立腺がん
宮崎医院	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・前立腺がん
島脳神経外科整形外科医院	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・前立腺がん
すがわら泌尿器科・内科	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・前立腺がん
武蔵中原しくらクリニック	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・前立腺がん
武蔵中原しくらクリニック	乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・前立腺がん

6 広報業務・地域医療研修等業務

毎月月初めに近隣医療機関（約 550 施設）に外来診療表や地域医療部だより等を発送しました。なお、地域医療部だよりは 1 号刊行しました。開業医訪問を 123 件実施したほか、コロナ対策出前講座を 10 回開催しました。

7 市民公開講座開催実績

2021 年度の市民公開講座については、コロナ禍における感染蔓延防止の観点から WEB 市民公開講座を 12 回開催しました。

（文責 地域医療部担当課長 片谷 寿恵）

15 医療安全管理室

医療安全管理室では、インシデント報告の推進、院内ラウンドの実施などにより現場の状況を把握し、組織における安全文化の確立に努めています。医療安全に関する研修は、多職種で取り組む転倒転落予防について 4 回シリーズでビデオ研修を行い、医療品副作用被害者救済制度について研修を開催しました。インシデント・アクシデントの再発防止策の周知として安全ニュースを 5 部発行しました。安全対策評価としては、連携病院との安全対策相互ラウンドを行い、改善事項の指摘も頂きました。

また、医療安全管理室では医療相談への対応をしています。相談窓口には、医療相談以外のご意見もあり、患者サポート会議で内容の検討を行い改善に取り組んでいます。

（1）2021 年度インシデント・アクシデント件数

薬剤 関連	輸血 関連	治療・ 処置 関連	医療 機器 関連	ドレーン・ チューブ類 の使用管理	検査 関連	療養上の 場面	その他	計
769	11	263	62	121	218	357	36	1837

(2) 2021年度インシデント・アクシデントレベル別件数

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4 ～5	計
541	897	288	100	11	0	1837

(3) 2021年度 相談窓口問い合わせ件数

受診相談	健康相談	苦情	その他	計
1013	625	80	1848	3566

(4) 2021年度 安全ニュース一覧

発行数	タイトル
Vol. 1	胸腔ドレーンの水封室・調圧室の蒸留水注入について (第2報)
Vol. 2	経腸栄養変換コネクタの管理方法 (第2報)
Vol. 3	KCL急速投与事例報告
Vol. 4	ナースコールが聞こえずに患者対応が遅れた事例から システム変更と環境調整ができました!
Vol. 5	ダブルバック製剤隔壁開通忘れ発生

(文責 医療安全管理室担当課長 宮崎 幸子)

16 感染対策室

当院は平成19年より感染対策室を設置し院内感染対策の徹底に力を入れております。診療報酬としては、感染対策防止加算1と地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算を申請して活動しています。感染の発生状況を適切に判断するためのサーベイランスでは、中心静脈カテーテル関連血流感染、尿道留置カテーテル関連尿路感染(UTI)、手術部位感染(SSI)、耐性菌、針刺し・切創・粘膜曝露を実施しています。

厚生労働省(JANIS)、環境感染学会(JHAIS)の院内感染サーベイランス事業にも参加し、国内状況を踏まえた評価と改善に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れや発熱者に対応した院外テントにおけるコロナ外来の実施やトリアージなど市立病院としての役割発揮に努めるとともに院内感染防止対策に病院を挙げて取り組んでいます。

地域活動としてはKAWASAKI地域感染制御協議会や川崎ICT(感染制御チーム)カンファレンスに参加し、市内の主要医療機関との連携も行っています。また自治体病院として、感染に関する相談等にも対応しています。自施設に限らず近隣の医療機関や療養型施設を含め、市内の感染対策向上に貢献していけるよう今後も努力を続けていきたいと思っております。

【抗菌薬適正使用の支援と推進】

抗MRSA薬、カルバペネム、ハベカシン、ニューキノロン系の薬剤に対し届出制を導入しています。また、広域ペニシリン系薬であるゾシンも監視対象としています。届出状況は毎週行われるAST(抗菌薬適正使用支援チーム)会議で報告され、長期使用に関してはASTによる介入・指導を行っています。

ます。また年に2回AST研修会も開催し、国の推進するAMR(薬剤耐性)対策にも継続して取り組んでいます。

(文責 感染対策室担当課長 森田 純子)

17 医事課

2021年度の診療稼働状況につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響から、入院患者が76,576人で前年度比82.7%、外来患者は140,373人で前年度比98.5%となり、入院は前年度と比較して16,002人の減少、外来2,203人の減少となりました。患者1人1日当りの診療単価は、入院単価が53,182円となり前年度より4,300円上昇、外来単価は17,231円となり前年度より1,355円減少しました。外来・入院を合わせた診療稼働額は前年度と比較して9.5%減少しました。

2021年度は、がん登録において、予後調査として住民票を用いた生存確認を引続き実施しました。

診療報酬改定においては、大きな変更や確認項目が多い部署を対象にヒアリングを行うとともに、院内職員向けに改定の説明会や井田病院への影響と必要な対応について勉強会を開始するなど、適正な診療報酬請求に努めました。

未収金の回収に関しましては、継続して催告を行うとともに、弁護士委託を活用し、未収金の回収に努めました。

また、電話診療を昨年度に引き続き実施し、また会計処理が済んだ方の番号を表示するモニターを1台増設するなど、患者サービスの向上を図りました。

2022年度も引き続き、患者サービスの向上に努めるとともに、経営健全化の推進に努めてまいります。

(文責 医事課長 荒川 清隆)

18 在宅緩和ケアセンター

かわさき総合ケアセンターは1994年に「かわさき総合ケアセンター構想報告書」による建議で発足し、1998年10月から健康福祉局との共同事業として現在の地域医療構想の先駆けとして足掛け23年間活動してきました。先般の川崎市議会にて2021年3月末付で健康福祉局の事業である「井田老人ディサービスセンター」「井田居宅介護支援センター」が撤退・移動することにより「かわさき総合ケアセンター」の廃止が決定しました。しかしながら、がんなどの疾患を中心に医療の高度化および患者さん・家族の価値観の多様化に伴い、より個別性の高いケアが求められるようになっていきます。私たちはそのような時代のケアのあり方を実践すべく、井田病院内に「在宅緩和ケアセンター」として新たな体制を整え、「緩和ケア」「在宅ケア」「医療依存度の高い高齢者ケア」を中心に地域社会のニーズに答えていくことになりました。

2021年度もコロナ感染対策のために入院患者の面会制限や病床制限があり、在宅看取りの件数が増えました。緩和ケア病棟と在宅部門の看護師の連携により、切れ目のない在宅入院緩和ケアを提供することが出来ました。

在宅部門では、がんの末期でも在宅移行できるように、緩和ケア医が近場は往診すると

ともに訪問看護ステーションやヘルパーと協力してがん終末期の在宅ケアに臨んでいます。安定している場合や遠い場合は患者近くの往診医に紹介していますが、後方支援病院連携登録を行い患者の緊急入院希望に対応しています。

緩和ケア内科として、10月から整形外科保坂聖一医師と泌尿器科栗田華代医師を常勤医（兼務）として迎えました。宮森正先生と共に井田病院の緩和ケア・在宅ケアおよび肝臓内科で長年ご尽力された石黒浩史先生が3月末でご勇退されました。宮森先生、石黒先生には、講師として引き続き週1回ご指導いただきます。

専門研修医として、山下博美、中垣達、杉真恵の諸先生方が研修され、短期研修（初期研修医緩和ケア内科研修）として、坂上直也、田倉祐介、田尻舞、福澤紘平、三村安有美先生方が参加されました。

（文責 在宅・緩和ケアセンター所長 佐藤 恭子）

表1 緩和ケア病棟 行事

開催月	内 容
12月	クリスマス
2月	豆まき

※新型コロナのため、外部協力はなしで開催

※遺族会は、新型コロナのため中止

代替として、手紙とリーフレットを郵送し、電話相談を実施

表2 緩和ケア病棟 各種ボランティア等活動

活動内容	活 動 日
園芸ボランティア	毎週木曜日
アロマセラピー（アロマセラピスト）	原則毎月第2金曜日+不定期（ボランティア）
温灸療養（鍼灸師）	原則毎月第4水曜日+第2水曜日（ボランティア）
園芸療養（園芸療法士）	原則毎月第1金曜日（不定期）

※鍼灸師は病棟カンファレンス参加

※園芸ボランティアは、新型コロナウイルスのため活動休止

表3 緩和相談件数、緩和ケア内科初診外来件数

	緩和相談件数（電話・面接）	緩和ケア内科初診外来件数
2019年4月～2020年3月	2,853	323
2020年4月～2021年3月	2,448	245
2021年4月～2022年3月	2,410	230

表4 患者基礎（原発）疾患別入院患者数

基礎（原発）疾患名	人数
脳腫瘍（グリオーマ膠芽種・髄膜腫・下垂体腺腫・神経鞘腫・頭蓋咽頭腫・血管芽腫）	1
頭頸部癌（鼻副鼻腔・口腔・咽頭・喉頭・唾液腺・目・耳・舌・口蓋・耳下腺）	11
甲状腺癌（乳頭・濾胞・髄様・未分化・悪性リンパ腫）	1
呼吸器癌（小細胞・非未分化・縦隔腫瘍）	69
食道癌	17
胃癌（胃・十二指腸・空腸）	35
大腸・小腸癌（上・横・下行結腸・直腸・盲腸）	51
肝癌（肝臓・胆嚢・胆道・胆管）	23
膵癌	43
腎癌（腎臓・腎盂）	15
乳癌	41
子宮癌（子宮頸癌・子宮体癌・卵巣）	18
前立腺癌（膀胱・尿管・前立腺・睪丸・精巣・陰茎）	31
皮膚（悪性黒色腫）	1
骨腫瘍・軟部腫瘍・悪性肉腫	8
血液（急性白血病・悪性リンパ腫）	19
血管肉腫	0
原発不明癌	4
中皮腫	0
その他	2
不明	0
計	390

表5 緩和ケア病棟 入退院患者数

年月	新入院患者数	退院数			
		在宅移行	死亡	その他	計
2019年 4月～2020年 3月	398	71	301	29	401
2020年 4月～2021年 3月	407	134	231	45	411
2021年 4月～2022年 3月	390	153	189	39	381

表6 緩和ケア病棟 在院日数の分布等

年月	入院患者数	入院日数別内訳				一日平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数
		0～7日	8～30日	31～60日	61日以上			
2019年 4月～2020年 3月	398	126	202	63	10	20.5	89%	18.8
2020年 4月～2021年 3月	407	128	218	50	13	19	82%	16.8
2021年 4月～2022年 3月	390	119	217	41	3	17.4	76%	15.5

表7 緩和ケア病棟 入院患者の年代別分布、平均年齢

	計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代~	平均年齢
2019年4月~2020年3月	398	0	6	5	17	42	64	118	120	26	72.7
2020年4月~2021年3月	407	0	1	8	4	28	73	115	143	35	75.2
2021年4月~2022年3月	390	0	0	1	13	40	45	127	118	46	75.7

(1) 緩和ケア病棟

緩和ケア病棟の受け入れ実績は、390名と横ばいですが、平均在棟日数は15.5日と緊急入院や短期間での退院が多く、患者の回転が激しく病棟スタッフもさらに多忙となっています。自宅退院希望患者については、退院調整に奮闘しました。

今年度も、コロナ感染症の院内感染を予防すべく、細心の注意を払いながらの病棟運営となりました。面会制限のために最期の時間を十分にはご家族と過ごせなかったり、家族ケアができない中で、スタッフは精一杯のケアを行いました。ボランティアによるティーサービスやイベントも中止のままの一年でしたので、可能な範囲でスタッフによるクリスマスや豆まきのイベントを行いました。

緩和ケア病棟は、単独で成立している訳ではなく、院内のスタッフの皆様に支えられています。近隣の開業医の先生方からのご紹介の患者様を救急外来で評価し、一般病棟もしくは緩和ケア病棟で治療・ケアを行い、病状により再度自宅退院もしくは施設退院の調整を行います。今年度は在宅部門の看護師が緩和ケア病棟のスタッフ1名がリリース体制(1.5か月交代で3名)となり、よりシームレスに緩和ケア病棟と在宅での療養を支えることができました。

(文責 ケアセンター副所長 佐藤 恭子)

(2) 医療相談部門

医療ソーシャルワーカーは、平成28年度より地域医療部に本務を移し、医療費の支払いや経済的なこと、社会福祉制度の活用、退院後の生活、在宅療養、転院先、施設利用など、入院や通院に伴って生じる様々な相談に応じています。

(文責 地域医療部 梅山 哲矢)

医療相談

表1 MSW 取り扱い実数(相談開始時)

新規実数		依頼票あり	依頼票なし	合計
		885	77	962
内訳	在宅へ調整	377	/	/
	他施設転院	452		
	社会福祉諸制度	24		
	医療費・その他	32		

表 2 相談数

	MSW	
	相談実数	相談延数
4月	139	1129
5月	120	825
6月	120	1075
7月	130	1043
8月	141	1076
9月	110	949
10月	119	940
11月	133	1092
12月	129	988
1月	141	931
2月	145	1116
3月	160	1167
合計	1587	12331

表3 MSW 援助方法(延べ数)

		外来	入院	他	合計
医療相談	面接	151	1909	9	2069
	電話	341	9066	71	9478
	文書	29	747	8	784
	合計	521	11722	88	12331

表4 MSW 援助内容(延べ数)

内容	
受療・療養援助	99
転院・他施設紹介援助	1797
経済的援助	50
受診援助	25
在宅退院への援助	1320
心理的情緒的援助	7
福祉制度活用援助	130
関係機関連絡調整	7112
家族支援 精神的心理的	60
その他	30
院内調整	1701
計	12331

表5 川崎市在宅障害児者短期入所事業(ショートステイ)利用状況

実数	延数	延入院日数 (平均)	地区別							障害等級				利用理由	
			川崎	幸	中原	高津	宮前	多摩	麻生	1級	2級	3級	4級	社会的	私的
2	9	4.5			2					2					2

(3) 在宅ケア部門

在宅ケア部門の看護師は、平成30年度より地域医療部に本務を移し、事務室、ケア科当直室もケアセンターから新棟に移りました。

病院から在宅ケアを行う例は、重症、終末期、不安定、問題例などの症例に限られています。安定した場合や安定例の場合は、基本的に開業の往診医に紹介しますし、一旦引き受けて安定していれば、開業往診医へ依頼することもあります。往診医の情報も在宅ケア部門にあり、開業の往診医とも協力して在宅ケアを行っています。

病院から往診する症例は、直ぐ悪化する危険性のある場合が典型です。こうした例は、開業医師は持ちたがりませんし、紹介しても直ぐに再入院となる事が多く見られます。病院から重症例の在宅ケアは、再入院になるにしても、その時期は、我々が決められることも重要な点です。

コロナ対策による面会制限のため、在宅看取りはさらに増加し、引き続きがん比率は89.3%と高い状況です。がん末期の在宅緩和ケアを中心にしていますが、非がんの在宅末期ケアも対象としています。今年度も一部の在宅部門の看護師が緩和ケア病棟のスタッフと兼任となり、よりシームレスに緩和ケア病棟と在宅での療養を支えることができました。施設看取りとなる症例も増えており、サービス付き高齢者住宅のみならず、看護付き小規模多機能、有料老人ホームなどへの訪問診療を行いました。

(文責 ケアセンター副所長 佐藤 恭子)

表1 訪問診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	109	100	98	71	91	86	86	81	92	83	104	71	1072
2020年度	98	92	106	102	103	120	105	99	103	98	101	85	1212
2021年度	118	93	76	94	114	101	88	110	94	97	108	121	1214

表2 訪問看護件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	36	45	45	38	36	33	29	29	31	33	32	26	413
2020年度	33	36	40	37	44	52	47	41	42	43	52	34	501
2021年度	44	32	45	25	40	31	30	46	44	33	37	37	444

表3 往診患者実数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実数
2019年度	52	55	56	47	57	54	52	51	57	56	53	45	176
2019年度 (がん)	32	34	38	30	35	34	24	31	38	38	37	34	154
2019年度 (がん)	61.54%	61.82%	67.86%	63.83%	61.40%	62.96%	46.15%	60.78%	66.67%	67.86%	69.81%	75.56%	87.50%
2020年度	50	49	55	49	53	60	56	58	57	61	53	51	169
2020年度 (がん)	33	34	39	33	35	42	40	43	43	48	40	28	148
2020年度 (がん)	66.00%	69.39%	70.91%	67.35%	66.04%	70.00%	71.43%	74.14%	75.44%	78.69%	75.47%	54.90%	87.57%
2021年度	51	53	44	47	52	50	51	50	57	52	53	50	179
2021年度 (がん)	39	41	33	34	41	39	41	36	41	38	39	35	160
2021年度 (がん)	76.47%	77.36%	75.00%	72.34%	78.85%	78.00%	80.39%	72.00%	71.93%	73.08%	73.58%	70.00%	89.39%

表 4 在宅見取り患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	3	5	4	1	1	2	2	1	2	2	6	1	30
2020年度	3	3	4	5	2	6	6	6	6	5	2	3	51
2021年度	5	7	6	5	8	6	3	4	1	3	5	7	60

表 5 受け入れ会議実施患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	5	14	9	4	13	5	15	7	12	8	6	4	102
2020年度	17	12	11	9	11	16	15	11	11	15	5	6	139
2021年度	13	5	9	10	14	14	6	12	14	4	6	10	117

表 6 夜間往診件数（17：00～8：30の往診件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	5	3	6	2	4	8	3	7	4	2	14	8	66
2020年度	10	3	8	8	7	11	12	7	3	12	4	2	87
2021年度	14	8	11	12	17	8	6	7	7	2	7	9	108

訪問看護実数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総実数
2019年度	6	10	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5	17
2020年度	6	6	7	7	8	8	7	8	7	8	8	6	19
2021年度	6	5	6	5	7	4	6	7	7	6	6	6	23

往診患者実数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総実数
2019年度（がん）	27	25	27	24	27	32	23	33	32	34	35	25	154
2019年度（非がん）	27	23	24	23	23	21	20	20	20	20	20	19	22
2019年度	54	48	51	47	50	53	43	53	52	54	55	44	176
2020年度（がん）	33	44	52	61	71	85	98	109	121	136	143	38	148
2020年度（非がん）	17	15	16	16	18	19	20	20	21	21	21	13	21
2020年度	50	49	55	49	53	60	56	58	57	61	53	51	169
2021年度（がん）	39	41	33	34	41	39	38	36	41	38	39	35	160
2021年度（非がん）	12	12	11	13	11	11	13	14	16	14	14	15	19
2021年度	51	53	44	47	52	50	51	50	57	52	53	50	179

（４）がん相談支援センター

がん相談支援センターは、認定がん専門相談員である看護師2名が在籍しています。院内・院外の患者、家族、また地域住民、医療福祉関係者等から、がんに関する様々な相談を電話や面談で受け、お話を聞かせていただいた上で情報提供や心理的支援、また

相談内容に応じて医療福祉関係者との連携を図っています。相談内容は、当院に緩和ケア内科があることから緩和ケアに関する事柄が最も多く、その他にはがんの治療や療養の場の選択、社会生活（就労、学業、介護等）と治療の両立について等の相談がありました。また2021年度より、当センターが院外からの緩和ケア内科初診の相談、受診調整の役割を担うことになりました。

その他、がん患者や家族が自由に語れる場として月2回のがんサロンの開催を続けてきましたが、2020年度に続き、2021年度も新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて開催を見合わせました。相談支援を必要としている方々には当センターで個別対応を行うと共に、当センターの利用方法を案内するために「がん相談支援センター通信」の発行を開始しました。

今後も院内外の関係者の皆様と連携して、相談対応の質向上に努めてまいります。

（文責 がん相談支援センター 濱田 麻里子）

表1 がん相談、緩和相談、セカンドオピニオン相談の件数（延数）

		2020年度	2021年度
がん相談	電話	289	268
	面接	267	184
緩和相談	電話	2,299	2,260
	面接	136	150
	その他	14	0
セカンドオピオン相談	電話	40	52
	面接	12	9
合計		3,057	2,923

表2 セカンドオピオン受診件数

	2020年度	2021年度
泌尿器科	2	2
呼吸器内科	0	0
呼吸器外科	0	0
腫瘍内科	0	2
消化器外科	1	1
外科	0	0
血液内科	0	0
肝臓内科	0	0
乳腺外科	1	2
婦人科	0	0
放射線治療科	3	5
合計	7	12

